

## 全学での検討が必要な課題に対する検討結果一覧

### 7. 研究に関すること

No	全学での検討が必要な課題	関連する点検・評価の項	特記事項	点検を行った全学組織・部局名	対応予定
1	欠員が生じた場合の補充	7-2-1	今後定年で教員が減る一方、指定規則の変更により必要とされる教育内容は増加し、教員の負担は増大している。その状況で研究活動に同じ質を維持するならば、教員の過重労働は避けられない。	看護学部門	令和4年度以降の教員人事は「第4期中期目標期間 教員人事基本方針」に基づき行われるため内部質保証会議では欠員が生じた場合の補充についての新たな対応策の検討は行わない。研究活動の質の維持については、教員の研究時間を確保するための支援策を研究推進戦略委員会において検討する。

### 8. 図書館及びICTに関すること

No	全学での検討が必要な課題	関連する点検・評価の項	特記事項	点検を行った全学組織・部局名	対応予定
1	全学的にDXを推進していく体制が構築されていない。セキュリティ面や多重投資等の観点からも全学的なDXに対する何らかの統制体制を整備する必要がある。	8-1-1	総合情報システムだけでなく、各部局などで個別に導入するシステムについても統括管理が必要である。	学術情報基盤図書館	令和4年度教育研究組織改革分（組織整備）概算要求において学内にDX推進機構を新たに設置することが計画されており、この事業を通じて全学的にDXを推進する体制を構築することとなる。そのため内部質保証会議で新たな対応策の検討は行わない。
2	世界的なオープンサイエンス推進の動向を鑑みて、本学においても研究データ管理基盤を構築していく必要がある。このことについては以下の2点について全学的に検討すべきである。 1. 高知大学のオープンサイエンス方針の策定 2. データアーカイブ基盤の予算確保	8-1-2		学術情報基盤図書館	理事（研究・評価・医療担当）が中心となり、高知大学のオープンサイエンス方針及びデータアーカイブ基盤の構築について検討を行う。